

第7章 部活動の実践事例

1 地域と協働・融合した部活動

1

令和3年度地域運動部活動推進事業

渋谷区教育委員会

【中学校生徒数】
1,886名

【中学校数】
8校

【渋谷区の特徴】

- ・ 数多くの企業や商業施設、代々木公園等の自然豊かな場所がある。国内外を問わず多くの人々が渋谷を訪れ、活気にあふれている。
- ・ 平成29年9月より児童・生徒、教員に一人一台のタブレット端末を配備した。学校情報化先進地域の指定を受けている。



【取組の目的】

○現状

- ・ 小規模校が多く、生徒は限られた部活動の中から部活動を選択しなければならない。
- ・ 教員は未経験の部活動を担当することがあり、生徒への指導に自信がもてない。

○目的

- ・ 教員の働き方改革を推進し、生徒にとって魅力ある地域部活動にするために、企業やスポーツ団体等と連携して多様多種の部活動の創設や経験豊かな部活指導員を配置する。

【取組の内容】

○サッカー教室の開催

- ・ 区立中学校の生徒を対象に、サッカー教室を開催する。講師には、プロのクラブチームの方々に協力を依頼し、年間10回の練習会を企画した（コロナ禍により3回実施）。

○アンケートによる意識調査の分析

- ・ 中学校全生徒を対象に、入りたい部、やってみたい活動等に関する調査を実施した。
- ・ 結果を分析し、今後立ち上げる活動の方向性を決める。

【今後の取組】

○ロールモデル部活動の構築

- ・ サッカー部の地域部活動化をモデルにし、他種目の部活動改革を進め、部活動の指導を部活動指導員や地域部活動を担う団体への移行を推進する。

○生徒の興味関心に応じた多様多種の魅力ある地域部活動を創設していく。

○地域スポーツ活動を通じた地域コミュニティの活性化につなげる。

【取組の成果】

○生徒の変容

- ・ 所属する学校でサッカー部がない生徒、クラブチームの練習を体験したい生徒、将来サッカーに関わる仕事を目指す生徒にとってプロの指導者から多くのことを学ぶ機会となり、運動を楽しむ姿が見られた。

○地域部活動の拡充への模索

- ・ 合同部活動が困難とされるサッカー部を地域部活動として展開できたことで、あらゆる部活動の地域部活動化への可能性を見い出せた。

【具体的な内容】

○サッカー教室の開催

- ・区立中学校の生徒を対象に、サッカー教室を開催する。講師には、プロのクラブチームの方々に協力を依頼し、年間10回の練習会を企画した（コロナ禍により3回実施）。

○サッカー教室の様子

- ・区立中学校のサッカー部と地域のクラブチームと一緒に練習に取り組んだ。ミニゲームを行うなど実践的な練習も活発に行った。最初戸惑っていた生徒たちも、徐々に打ち解けていき練習にも熱が入っていた。



- ・サッカーの基本的な技術について、直接指導



- 石川直宏氏の話をもとに真剣に聞く参加者

○意識調査の分析

- ・生徒の希望する活動について、地域の協力が得られるよう団体等との調整を進めてきた。
- ・意識調査を基に、サッカーに加え8つの活動について立ち上げることにした。（ボウリング、ダンス、ポッチャ、将棋、パソコン、硬式テニス、フェンシング、女子ラグビー）

【具体的な成果】

○生徒の変容

- ・所属する学校でサッカー部がない生徒、クラブチームの練習を体験したい生徒、将来サッカーに関わる仕事を目指す生徒にとってプロの指導者から多くのことを学ぶ機会となり、運動を楽しむ姿が見られた。

○地域部活動の拡充への模索

- ・合同部活動が困難とされるサッカー部を地域部活動として展開できたことで、あらゆる部活動の地域部活動化への可能性を見い出せた。

- ・サッカー教室の参加者で記念撮影。楽しくサッカーを体験できた良い機会となった。



日野市教育委員会

【中学校生徒数】
4,265名

【中学校数】
8校

【日野市の特色】

- ・東京都のほぼ中心部に位置している。多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつ、水と緑の豊かなまちである。
- ・土方歳三や井上源三郎が生まれ育った、「新選組のふるさと」であり、例年5月には「ひの新選組まつり」が開催されている。



【取組の目的】

- 現状
 - ・地域企業等と連携した部活動改革の推進
 - ・部活動指導員の配置
- 目的
 - ①地域運動部活動の実現可能性の実践研究
 - ・運営方法の課題抽出
 - ②持続的な地域運動部活動あり方の検討
 - ・運営方法、人材、財源の検討
 - ・運営受け皿の検討

【取組の内容】

- 1校1部活動での地域部活動の実施
 - ・教育委員会主催（運営委託）
 - ・休日の部活動において移行の実践
 - ・部活動指導員の活用
 - ・運営方法の課題抽出
- 検討・運営会議の設置
 - ・企画経営課、文化スポーツ課との連携
 - ・持続的な地域運動部活動あり方の検討
- 生徒・保護者・教員アンケート
 - ・実態調査
 - ・地域運動部活動の課題抽出

【今後の取組】

- 持続的な運営を行うための財源の確保
 - ・教育委員会主催の地域運動部活動の継続
 - ・保護者アンケート調査の実施（受益者負担の可能性調査）
- 受益者負担以外の運営財源の確保の検討
- 地域部活動の運営団体の立ち上げ
 - ・行政機関以外の地域部活動の運営団体設置
 - ・コニカミノルタ株式会社によるアカデミー立ち上げ
- 指導人材の確保・連携と多様な運営団体の可能性調査
 - ・地域企業・団体・大学との連携

【取組の成果】

- ①地域運動部活動の実現可能性の実践研究
 - ・運営方法の課題抽出（出席管理・体育施設の鍵開閉など）
 - ・コロナ禍における実施機会の減少
 - ・学校、教員との事前調整方法のノウハウ
- ②持続的な地域運動部活動のあり方検討
 - ・地域企業や団体の連携強化
 - ・行政機関以外の運営受け皿の可能性
 - ・庁内連携（横断的な事業展開）の可能性

【具体的な内容】

○ 1校1部活動での地域部活動の実施

・2021年12月から教育委員会主催にて休日の地域運動部活動を実施

【実施日】2021年12月25日～4回実施（中止3回）

【対象者】日野市立三沢中学校 女子バスケットボール部所属生徒

【参加者数】16名

【活動場所】該当学校体育館



○ 検討・運営会議の設置

・2回/年の検討・運営会議の実施

【日野市】教育委員会・企画経営課・文化スポーツ課

【学校】三沢中学校 校長・日野第二中学校 校長・三沢中学校 保護者

【団体・企業】日野市体育協会・コニカミノルタ株式会社

○ 生徒・保護者・教員アンケート

・生徒および保護者対象アンケート

【内容】地域運動部活動・運営に関する評価

受益者負担に関する調査等・教員対象アンケート

【内容】地域運動部活動に関する調査、部活動指導に関するニーズ調査等

【具体的な成果】

○ 地域運動部活動の実現可能性の実践研究

【成果】

・保護者連絡と出欠登録にスマートフォン・アプリを使用

・学校施設利用時の管理体制の整備

・次年度以降の横展開に向けた指導人材・拠点校の可能性

【課題】

・コロナ禍におけるオンライン指導等の対応

・拠点校（部活動）の選定基準の明確化

○ 持続的な地域運動部活動のあり方検討



2 科学的トレーニングを積極的に導入する部活動

Sport-Science Promotion Club の取組

東京都教育委員会では、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果が得られるような合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する「Sport-Science Promotion Club」を指定し、都立高校等運動部活動における一層の競技力向上を図っている。[指定期間：令和4年度～令和6年度（56部・39校・31競技）]

都立美原高等学校

弓道部

- コンディショニングアプリの活用とアスレチックトレーナーによる2度の講習会の受講によって、スポーツ医・科学的知見に基づいた合理的なトレーニング法や効果的な休養の取り方と栄養に関する知識を身に付けることができた。
- 遅延再生映像を用いて自身の射形の確認をできる環境を取り入れ、短時間で効果の得られる活動を推進した。



都立飛鳥高等学校

女子サッカー部

- メンタルトレーナーからの指導により、生徒それぞれの目標設定のもと、心情を整える方法や相手を尊重する態度を育てることができた。
- GPSで取得したデータを利用して生徒の走行距離やスピードを即座にフィードバックすることで、技術・体力・戦術面など、個々及びチームの能力が向上させることができた。



都立小平西高等学校

ソフトボール部

- 球速や回転数などの投球に関する様々なデータを計測できる機器の導入により、ピッチングに対して科学的にアプローチする姿勢が育まれるとともに、変化球習得の効率化につながった。
- フィジカルトレーナー及びアナリストによる指導を通して、科学的根拠に基づいたトレーニングメニューの作成や、様々なデータを活用して分析する能力が向上した。



都立小岩高等学校

バドミントン部

- 映像を通じて科学的にバドミントンの理解を深めるためデジタルコーチを採用し、通年で指導を受けたことで、競技力を向上させることができた。
- 栄養講習会を実施し、スポーツにおける食事の重要性の理解を深めることができ、日々の食事に対する姿勢が改善した。



3 生徒の多様なニーズに応える部活動

※掲載内容は、令和元年7月時点のもの

墨田区立吾嬬立花中学校 体力向上クラブ

- 目的：運動が苦手な生徒の意欲向上
- 活動日：週2回（月・木曜日）
- 時間：30分間程度
- 内容：リズム運動やボールゲーム、体幹トレーニング 等



リズム運動



ボールゲーム

稲城市立稲城第三中学校 レクリエーションスポーツ部

- 目的：体育の授業以外運動していない生徒の意欲向上、体力の向上
- 活動日：週1日
- 時間：1時間程度
- 内容：ダンスを中心に、バドミントンやボール運動等



コンタクトインプロビゼーション（仲間と体を接触させ、相手の重さや力の流れを感じながら即興的に踊るダンス）、チアダンス、モダンダンス、創作ダンスなど

東京都立中野工業高等学校 スポーツレクリエーション部

- 目的：スポーツを通じて運動不足解消&ストレス発散
- 活動日：週1～3回
- 時間：45分間程度
- 内容：ラグビー、バドミントン、バスケットボール、フットサル、ウェイトトレーニング、サンドバッグ打ちなどに取り組んでいる。生徒を中心にその時々で種目や内容を決めさせて、積極的に全員が楽しめるようにしている。



バスケットボール

4 合理的でかつ効率的・効果的に活動する部活動

※掲載内容は、令和元年7月時点のもの

【事例1】調布市立第四中学校 男子バレーボール部

■部活動の概要

部員数	指導者	教職員数	部活動指導員数	外部指導者数
23名		2名	0名	1名
部活動の特色等				
集団競技を通して「心 気 体」を向上させるとともに、学校の仲間や地域から応援される集団の一員であることを自覚できる集団の育成を目指して活動している。				

■活動日及び活動時間

	月	火	水	木	金	土	日
活動時間 (学期中)	休養日	1時間45分	休養日	1時間45分	1時間45分	休養日	大会及び練習試合
指導担当		顧問(教職員) 外部指導者		顧問(教職員) 外部指導者	顧問(教職員) 外部指導者		顧問(教職員) 外部指導者
活動内容		基本練習		トレーニング	基本練習		ゲーム形式
活動時間 (長期休業中)	休養日	3時間	休養日	3時間	3時間	休養日	大会及び練習試合
指導担当		顧問(教職員) 外部指導者		顧問(教職員) 外部指導者	顧問(教職員) 外部指導者		顧問(教職員) 外部指導者
活動内容		基本練習		基本練習	基本練習		ゲーム形式

■主な活動内容

月	主な活動内容
4月	ブロック春季大会
5月	都春季大会
6月	ブロック夏季大会
7月	都総合体育大会
8月	基本練習
9月	秋季大会に向けた練習
10月	ブロック秋季大会(新人戦)
11月	都秋季大会(新人戦)
12月	練習・練習試合
1月	
2月	ブロック冬季大会
3月	春季大会に向けた練習

■ 参加大会・発表・成績 等

月	参加大会・発表・成績 等
4月	第9ブロック春季大会準優勝 都大会出場
5月	多摩中学校バレーボール大会3位
7月	第9ブロック選手権大会優勝 都大会出場 東京都会長杯準優勝 関東大会出場
10月	第9ブロック新人大会第3位 都大会出場
2月	第9ブロック冬季大会優勝

■ 指導体制及び主な指導内容・分担 等

		指導内容・分担等
顧問 (教職員)	1	・大会運営 技術指導（主に火曜日・金曜日） 部活動便り発行 練習計画作成 ・大会引率
	2	・大会引率 技術指導（学期中 主に木曜日） ・グリーンバード計画（地域清掃）
外部の 指導者		【外部指導者】 ・基本練習指導

■ 指導の工夫と成果

指導の工夫

- 使用できる体育館が狭いため、学年ごとに練習時間を分けて練習している。
- 新入部員には、外部指導者や上級生が技術指導を行うように体制を組んで取り組んでいる。
- 月に1～2回、グリーンバード作戦（地域清掃）を行っている。

成果

- 縦割りの練習スタイルをとり、教え合い・学び合いができるような時間を設定し、お互いが自主的に練習に参加している。
- 複数顧問、外部指導者の活用で、指導する内容を明確に分け、選手にも教える側の役割分担を理解させることができた。
- 地域清掃（グリーンバード作戦：月に2回程度）を行うことで、競技以外にもボランティア活動に参加する生徒が増えた。



● 大会後の様子



● 地域清掃 グリーンバード作戦

【事例 2】 東京都立富士高等学校 陸上競技部

■ 部活動の概要

部員数	指導者	教職員数	部活動指導員数	外部指導者数
35 名		2 名	2 名	2 名
部活動の特色等				
<p>学校の教育目標である、「文武両道」を軸とし、生徒主体の中で、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって、目標を達成すべく日々の努力を重ねている。個人、団体ともに、関東、全国レベルの大会を目標とし、日々練習に励んでいる。</p>				

■ 活動日及び活動時間

	月	火	水	木	金	土	日
活動時間 (学期中)	2 時間	2 時間	休養日	2 時間	2 時間	2 時間	休養日
指導担当	顧問(教職員) 部活動指導員	顧問(教職員)		顧問(教職員)	顧問(教職員) 外部指導者	顧問(教職員) 部活動指導員	
活動内容	走練習・ 体カトレーニング	ブロック別 練習		走練習・ 体カトレーニング	ブロック別 練習	ブロック別 練習	
活動時間 (長期休業中)	2 時間	2 時間	休養日	2 時間	2 時間	2 時間	休養日
指導担当	顧問(教職員) 部活動指導員	顧問(教職員) 部活動指導員		顧問(教職員) 部活動指導員	顧問(教職員) 外部指導者	顧問(教職員) 部活動指導員	
活動内容	走練習・ 体カトレーニング	ブロック別 練習		走練習・ 体カトレーニング	ブロック別 練習	ブロック別 練習	

■ 主な活動内容

月	主な活動内容
4月	インターハイ支部予選 各種競技会
5月	インターハイ東京都予選 各種競技会
6月	関東大会 学年別大会支部予選
7月	東京都選抜大会 各種競技会
8月	インターハイ 他県との合同練習会 全国高校選抜大会
9月	新人戦支部予選 新人戦東京都大会 各種競技会
10月	国民体育大会 秋季支部大会 関東新人大会 日本ジュニア・ユース大会
11月	東京都駅伝大会
12月	基礎体力強化練習
1月	冬季合宿
2月	合同練習会
3月	各種競技会

■ 参加大会・発表・成績 等

月	参加大会・発表・成績 等
5月	平成 31 年度東京都高等学校総合体育大会 女子総合第 4 位 個人 15 種目入賞
6月	令和元年度関東高等学校陸上競技大会 男子 3 種目 女子 10 種目 リレー 1 種目出場
8月	第 7 回全国高等学校陸上競技選抜大会 出場予定 その他、女子 5000m 競歩 女子ハンマー投 において東京都高校新記録を更新

■ 指導体制及び主な指導内容・分担 等

		指導内容・分担 等
顧問 (教職員)	1	・全体指導：学期中 主に火・木・金・土、長期休業中 主に火・水・土 ・渉外（東京陸上競技協会、高体連、地域陸協 等）、外部引率
	2	・全体指導：学期中 主に月・木・金・土、長期休業中 主に月・木・土 ・会計、外部引率
外部の 指導者	1	【部活動指導員】 ・跳躍・投てき指導（走高跳・円盤・ハンマー投・やり投等） ・外部引率
	2	【外部指導者】 ・短距離・長距離指導

■ 指導の工夫と成果

指導の工夫

- 施設、用具を充実させ、効率よく練習ができるようにした。休息と十分な栄養を摂れるように時間をとった。また、講師を招き、選手・保護者を対象に栄養講習会を実施した。
- ブロック別に指導者を付け、個々に合わせた合理的・効率的な練習方法を実践し、更に生徒が自ら考えるように練習計画を立てるように指導を行った。
- 部活動指導員と顧問（教職員）がコミュニケーションを図って部活動の目的等を共有し、役割分担を明確にして、適切な部活動運営を行った。

成 果

- 平成 27～31 年度にかけて都大会、関東大会、全国大会に多数の選手が出場し、活躍した。また、東京都総合体育大会において、4 年連続で団体入賞した。
- 他校との合同合宿や、練習会、地域小学生への陸上指導等により、地域と連携しながら活動を行うことで、生徒の社会奉仕の精神や、相手を思いやる豊かな心を育成することができた。
- 部活動指導員及び外部指導者の活用により、顧問（教職員）の業務縮減を図るとともに、生徒の競技力を向上することができた。
- 顧問（教職員）、部活動指導員及び外部指導者が、部活動の目的を共有して指導にあたることで、生徒の人間的な成長を促すことを大切にしながら、部活動を運営することができた。



● 大会後の様子

【事例 3】 東京都立白鷗高等学校 吹奏楽部

■ 部活動の概要

部員数	指導者	教職員数	部活動指導員数	外部指導者数
38名		4名	1名	9名
部活動の特色等				
「一人ひとりがプロフェッショナル」を合い言葉に、部員全員がそれぞれの役割に責任をもち、積極的に部全体に貢献する意識をもって活動している。				

■ 活動日及び活動時間

	月	火	水	木	金	土	日
活動時間 (学期中)	2時間 (※1)	休養日	2時間	希望者自主練習 1時間 (※1)	2時間	年間平均 2.7時間 (※2)	休養日
指導担当	顧問(教職員)		部活動指導員	顧問(教職員)	顧問(教職員)	部活動指導員	
活動内容	個人練習 パート練習		個人練習 パート練習 分奏練習	放課後は 希望者自主練習	個人練習 パート練習	分奏練習 合奏練習	
活動時間 (長期休業中)	夏休みについては、白鷗高校独自の「18 コマルール」に従い、3時間（午前又は午後）の活動を1コマとして、合計18コマの活動のみ実施している。						

※1 参加大会前には臨時的朝練習を実施する場合がある（月・木）

※2 平成30年度の平均活動時間

* 通年…昼休み15分程度 腹式呼吸の練習を実施（考査期間中や行事前などを除く。）

■ 主な活動内容

月	主な活動内容
4月	入学式での演奏/部活動紹介でのミニステージ
5月	千葉県吹奏楽連盟デビューコンサート出演/体育祭での演奏
8月	ホール練習/東京都高等学校吹奏楽コンクール
9月	白鷗祭（文化祭）/日本管楽合奏コンテスト予選（音源審査）
10月	東日本学校吹奏楽大会
11月	日本管楽合奏コンテスト全国大会
1月	東京都高等学校アンサンブルコンテスト
3月	卒業式での演奏/定期演奏会（中高合同）/5年生（高校2年生）引退

■ 参加大会・発表・成績 等

月	主な活動内容
8月	東京都高等学校吹奏楽コンクール
9月	日本管楽合奏コンテスト（予選）
10月	東日本吹奏楽大会
11月	日本管楽合奏コンテスト（本選）
1月	東京都高等学校アンサンブルコンテスト

■ 指導体制及び主な指導内容・分担 等

		指導内容・分担等
顧問 (教職員)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・練習計画作成 ・全体指導 ・渉外 ・外部引率、会計
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導 ・外部引率、会計
外部の 指導者	1	【部活動指導員】 <ul style="list-style-type: none"> ・練習計画作成 ・音楽指導（個人指導・パート指導・基礎合奏・合奏指導） ・外部引率
	2	【外部指導者】 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽指導（パート指導）

■ 指導の工夫と成果

指導の工夫

- 部活動指導員と顧問（教職員）がコミュニケーションを密にとり、部活動の目的等を共有し、役割分担を明確にして、適切な部活動運営を行っている。
- 全パートで外部の指導者からレッスンを受けられるようにしている。
- 外部の指導者から学んだことや教則本等から得た情報を生かし、効率良く演奏技術が上達する練習方法を自分たちで考え、実行できるよう指導している。
- 生徒の楽器に関する知識を増やし、適切な維持・管理ができるよう努めている。

成果

- 外部の指導者の的確な指導もあり、短い練習時間でも有効に使えば上達できるという自信を生徒に得させることができた。
- 生徒の充実した活動により、保護者の理解と協力を得られるようになった。
- 警察からの演奏依頼など、地域に貢献できる部活動として認知されてきている。



● コンクール表彰式を終えて



● 学校創立 130 周年記念式典での演奏

【事例 4】 東京都立永福学園 音楽部

■ 部活動の概要

部員数	指導者	教職員数	部活動指導員数	外部指導者数
17名		6名	0名	0名
部活動の特色等				
集団で音楽を作り上げる楽しさを味わうとともに、主体的・実践的な活動を促し、将来の余暇の時間の充実に結び付けることを目指している。				

■ 活動日及び活動時間

	月	火	水	木	金	土	日
活動時間 (学期中)	1時間35分	1時間35分	休養日	1時間35分	1時間35分	休養日	休養日
指導担当	顧問 (教職員)	顧問 (教職員)		顧問 (教職員)	顧問 (教職員)		
活動内容	パート練習 又は合奏	パート練習 又は合奏		パート練習 又は合奏	パート練習 又は合奏		
活動時間 (長期休業中)	3時間						
指導担当	顧問(教職員)						
活動内容	7月下旬：パート練習 8月下旬：合奏						

■ 主な活動内容

月	主な活動内容
4月	生徒会主催新入生歓迎会入退場演奏・部活動紹介
5月	新入生歓迎会(部内)
7月	夏季練習
8月	夏季練習
11月	東京都特別支援学校総合文化祭音楽会
12月	校内発表会
3月	3年生を送る会(部内) / 卒業式入退場演奏

* 通年…各行事に向けて、パート練習・合奏練習

■参加大会・発表・成績 等

月	参加大会・発表・成績 等
7月	世田谷インクルージョンフェスティバル
11月	東京都特別支援学校総合文化祭音楽会
12月	校内発表会

■指導体制及び主な指導内容・分担 等

		指導内容・分担等
顧問 (教職員)	1	・全体指導 ・年間活動計画作成、外部引率
	2	・音楽指導 (編曲、打楽器パート、合奏)
	3	・全体指導 ・各月練習予定作成、外部引率
	4	・音楽指導 (キーボードパート又は打楽器パート)
	5	・全体指導 ・渉外 (総合文化祭役員)、外部引率 ・音楽指導 (キーボードパート)
	6	・全体指導 ・会計、外部引率 ・音楽指導 (キーボードパート)

■指導の工夫と成果

指導の工夫

- 部員の学級担任と顧問(教職員)が連携し、生徒の実態や指導方針を確認した上で、個々の実態に合った指導を行うようにしている。また、編曲やパート分けを工夫し、達成感を感じながら練習ができるようにしている。
- 部活中は、40分ごとに5分間の休憩を取り、生徒が集中して練習に取り組めるように工夫している。
- 部員が主体的に活動できるよう、部長・副部長と顧問(教職員)が練習内容や準備について打合せを行うとともに、その内容を部員に伝えることで、見通しをもちやすくしている。
- 部内行事(新入生歓迎会、3年生を送る会)では、生徒が相互に協力して運営する力を身に付けるために、生徒全員で役割を分担して活動している。

成果

- 部員の学級担任と顧問(教職員)が連携することで、生徒一人一人の成長を促すような場面を設けて部活動を運営することができた。
- 効率的・効果的な練習によって、生徒が、無理なく楽しみながら活動し、総合文化祭や校内発表等で達成感をもって演奏することができた。
- 生徒同士が相談しながら演奏の準備を行い、部内行事を計画したり運営したりすることを通して、主体的に活動する気持ちを高めることができた。



●平成30年度東京都特別支援学校第27回総合文化祭音楽発表会